

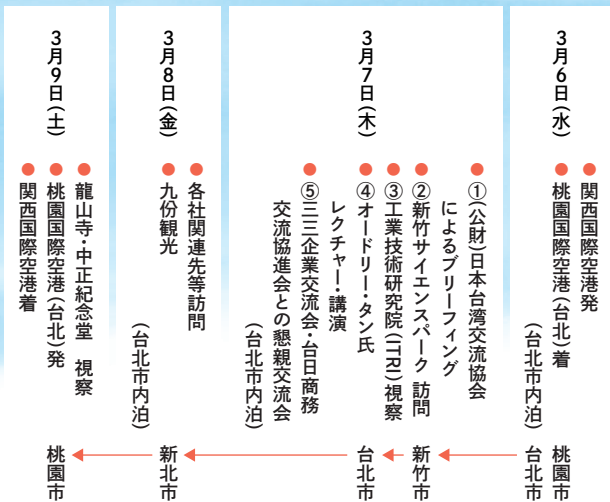
成長続ける 台湾経済に学ぶ

「台湾視察団」報告

京都商工会議所では齋藤副会頭を団長に、3月6日から4日間の日程で、総勢31名の視察団を派遣しました(主管＝国際経済・交流委員会)。

台湾経済は好調な半導体産業を核に成長を続けており、次なる新しい戦略にはバイオ・医療産業やグリーンエネルギー等複数の産業を政府が掲げて、投資や技術協力でサポートしています。またコロナ禍では感染対策にデジタル技術を用いて成功したことから世界の注目を集め、存在感を高めています。日本同様に少子高齢化が進み、既に人口減少局面にある中でも成長を続け、個人所得の増加、民間消費の拡大から経済の好循環を生み出している台湾の現状を視察しました。

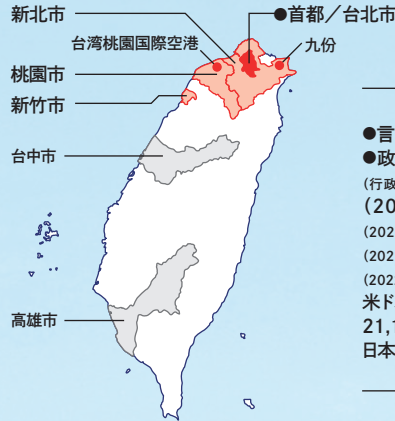
視察概要(行程)



台湾



- 人口/2,342万人(2024年1月)
※日本の約5分の1
- 面積/36,197km²
※九州よりやや小さい

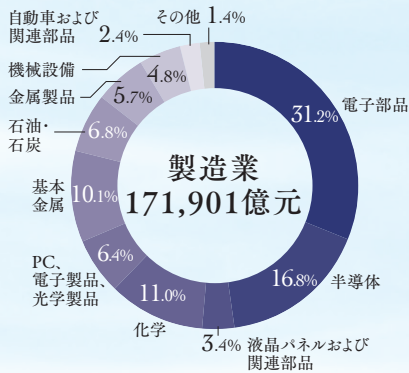


DATA

- 言語/中国語(公用語)、台湾語、客家語等
- 宗教/仏教、道教、キリスト教
- 政体/三民主義(民族独立、民権伸長、民生安定)に基づく民主共和制、五権分立(行政、立法、監察、司法、考試)
- 総統/蔡英文(~2024年5月20日)、頼清徳(2024年5月20日~)
- 通貨/新台幣ドル、1米ドル=30.73新台幣ドル(2023年末時点、台湾中央銀行)※1米ドル=141.40円
- 1人あたりGDP/32,643米ドル(2022年、IMF推計)※日本33,822米ドル
- 実質GDP成長率/6.53%(2021年)、2.35%(2022年)※日本2.6%(2021年)、1.0%(2022年)
- 対日貿易額/対日輸出 33,610百万米ドル、対日輸入 54,627百万米ドル(2022年-台湾財政部統計処)
- 在留邦人数/21,102人(2023年10月)
- 日系企業(拠点)数/1,502(2022年10月)
- 人的往来/日本人訪台 約 87,100人、台湾人訪日 約331,100人(2022年)

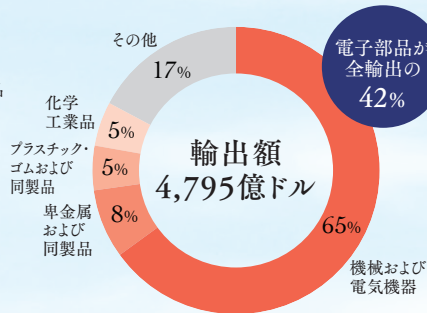
T A I W A N

2022年
製造業各産業別生産額



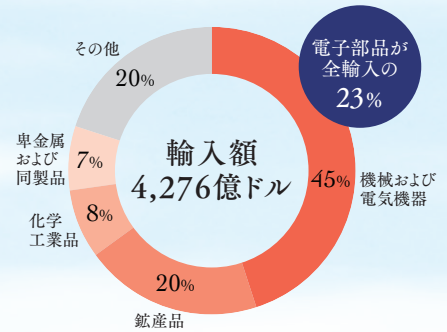
[出所] 經濟部製造業産值統計

2022年
台湾主要輸出品目



[出所] 財政部貿易統計資料査訊 主要貨品より作成

2022年
台湾主要輸入品目



[出所] 財政部貿易統計資料査訊 主要貨品より作成





特集 1

成長続ける 台湾経済に 学ぶ

「台湾視察団」報告



Report 01 公益財団法人 日本台湾交流協会 との懇談

日本台湾交流協会は、公式な国交がない中華民国(台湾)との実務関係を処理するための日本の対台湾窓口機関で、訪問した台北事務所は日本の在外公館が行う業務に類する事業を展開しています。対応いただいた片山代表からは、台湾における親日感情の高さや大陸との関係を踏まえた日本への今後の期待、1月13日に行われた総統選挙・立法院選挙結果に見える台湾人のバランス感覚といった話を伺い、また台湾から見た日本の現状や観光客増に伴う住民の生活への影響について意見を交わしました。



Report 02 新竹サイエンスパーク 管理局との懇談

新竹サイエンスパークは、台湾に科学技術産業を根付かせることを目的に経済戦略の一環として1980年に創設されました。14677ヘクタールに600社以上が入居、17万5000人が就業し、立地企業の売上総額は1兆6132億台湾ドル(2022年)、TSMCをはじめとする半導体ファウンドリビジネスの成功が知られるほか、PC製造、通信、精密機械の産業集積地となっており、現在は将来に向けバイオ・ライフサイエンス分野にも注力しています。



陳淑珠 管理局副局長
(左)と記念品を交換する
齋藤団長。

管理局は政府と自治体から権限を委譲され、土地を保有・管理して企業へ土地や標準工場を賃貸するとともに、下水処理を含む水道・電力・通信・金融等のサービスを提供することで、企業をワンストップでサポートし、事業に専念できる環境を整えています。一方で、就業者にも住宅や子ども対象の教育機関、診療所、公園を整備、シャトルバス運行等生活インフラを充実させることで人材が集まりやすい環境を生み出しており、高所得・高出生率・高教育水準を実現しています。

Report 03 工業技術研究院 (ITRI)の視察

工業技術研究院は、1973年に行政が設立した財団法人で、新竹のほか各地に拠点があり、研究者は6000名超。科学技術の研究開発により、産業発展と経済価値を創造し、社会福祉を促進することをミッションとしています。科学技術分野に絞った投資機構として、専門家派遣や資源・施設の補助を行い、これまで270社以上のベンチャー企業を育成しています。視線やジェスチャーに合わせて情報を表示し、

Report 04

オードリー・タン 台湾デジタル担当大臣 との懇談

オードリー・タン(唐鳳)氏は2016年に35歳の若さで台湾のIT担当の行政院政務委員(閣僚)に起用され、新型コロナウイルスの感染対策をデジタル技術で成功に導いた人物です。中学中退の天才プログラマー、起業家、そして自らトランスジェンダーを公表したことで注目を集めました。

懇談の中でタン氏からは「多様な民族が暮らす台湾では、異なる思想や意見があり、衝突は避けられない。ネガティブな意見を持つ人を集めて具体的な解決策を提案してもらい、より良いものを作っていく」「脅威に対しては、耐えられるようにレジリエンス(強靭性)を高める。災害や不測の事故にも強くなる」「for the people(人民のために)、でなく、with the people(人民とともに)」。人々の望みを政府が技術的にサポートし、リソースを提供することを重要視している」等お話しいただき、柔軟な発想の片鱗に触れることができました。



Report 05

三三企業交流会・ 台日商務交流協進会との 懇親交流会

両会とは2016年3月に京都で業務協力宣言を締結しており、以来はじめての交流の機会に、盛大な歓待を受けました。記念品交換では京都からは源氏物語をモチーフにした西陣織額をそれぞれに贈呈、三三企業交流会からは故宮博物院の黄金絵画、台日商務交流協進会からは絵画を受贈しました。



←三三企業交流会
林伯豊 理事長(右)は
2019年秋に旭日重光章を受章。



見ている魚がどの種類かがわかる世界初の「インテリジェント水槽」や、ペット等の動物を傷つけずに被毛の上からでも首輪で心拍数や呼吸等の情報を得ることができる技術、3Dプリンタで、網目状の構造を再現したより実物に近い人工骨等の紹介を受けました。

